

アジア

AR251

2025年9月～12月号

リポート



ミャンマー地震災害レポート：ジョン・トウング
バングラデシュ会堂建設レポート③ 吉田 隆

表紙写真：吉田 隆



地が揺るがされた日

AO ミャンマー ジョン・トウング

2025年3月28日ミャンマーは普段通りの一日だった。人々は通りを歩き、市場では話し声が聞こえていた。家族はお昼ご飯を食べるために集まっていた。しかし次の瞬間に何が起るのか、誰もまったく知らなかった。お昼の12時50分に、マンダレイに近いサガイング町から16キロメートル離れた場所を震源とした大地震が、ミャンマーを襲ったのだ。地中からは深いうめき声のような音が鳴り、直後に大きな揺れが起こったのだ。最初の揺れによって波のような激しい振動が襲い、家具は倒され、窓は割れていった。ある人々は目まいを経験し、別の人々はひび割れた壁を見て混乱していた。



この12分後に2回目の揺れがミャンマーを襲った。パニックはカオス（大混乱）に変わった。建物はまるで葦のように揺れ、雲のように舞い上がる埃と破片の中へと崩れていったのだ。橋は倒壊し、逃げ道が無くなっていった。道路も真ん中から割れてしまい、自動車はその中へと飲み込まれていった。人々は大きな声で叫びながら走っていた。倒壊した建物の下敷きになっているかも知れない大切な家族を、探し求めているのだ。この地震の規模は非常に大きく、タイや中国の南西部においても震度が観測された。

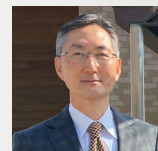
昔は賑わっていたマンダレイに近いサガイングの町も、今や見るも無惨な姿になってしまった。何年もかけて作り上げられた町が、数秒のうちに死んだかのような姿になっ

たのだ。しかしこれは、まだ始まりに過ぎなかった。倒壊した建物の下敷きになっていた人々の匂いが町のそこらじゅうに漂い始めたのだ。マンダレイやサガイングの暑い気候によって、腐敗が早く進んだことが影響したのだ。救助隊は救助用の用具を十分に供給されず、手作業で懸命に搜索し、一人でも多くの人を助けるために必死だった。



そのうち国際的な救助隊が到着し始めた。ところが道路や情報伝達網といったインフラが壊滅的な打撃を受けていたこともあり、助けが必要とされている所に行くには多くの課題があった。国際連合の報告によると、3万人以上もの人が住居を失った。命を失った人は約3,700人、4,800人が負傷し130人以上が行方不明であるとの報告が出た。しかし、複数の人道支援機関は、報告されていない数や情報収集の確認の難しさから、実際の被害者の数はもっと多いと警告している。人々は一筋の希望を持って、最愛の家族を必死に探し求め続けた。町中に嘆きや悲しみの声が溢れ、苦しみに満ちていた。

私は被災したマンダレイとサガイングとナイピウダの町々を訪問することができた。いつ崩れてもおかしくない建物が多くあり、人々は屋内に戻ることを恐れていた。そこで彼らは、道路沿いにテントを張って過ごしていた。あまりにも大きな被害であったがゆえに、人々はまだショック状態から抜け出せないままできて、当てもなく歩いていた人も多かった。私たちは少しばかりの救援物資を届けることができた。お米と食用油と豆を100世帯分ほど配給できた。私たちが食料をもって来たことを知った人々は、私たちの方に駆け寄って助けを求めてきた。私たちは持っているものをすべて与えたが、それは十分ではなかった。何も受け取れず、悲しみながら歩き去る人々を見て、私の心は



私が日本から派遣される宣教師について初めて知ったのは、高校生の時でした。当時、通っていた小さな教会は、宣教師が助けてお世話して下さっている所でしたが、日本からも宣教に出る事があるのだと、珍しく感じた事でした。私の教会の所属する団体からは初めてのその宣教師は、日本キリスト教海外医療協会の医療従事者として、1976年に、MY 先生がバングラデシュへ派遣されました。

その後、私たちの団体の中から宣教師の先生方が起こされ、引き継がれ、現在何組かの宣教師が、アジア、他の国々へと、導きを受けた地での働きをなさっています。また、短期宣教チームが募られると、同じ時期に異なる国々の活動が行われる事もあります。その地のニュースを色々とお聞きするようになり、その宣教の進展に神様の愛の働きを見せていただいています。

今、私の近所には、ある夫人がバングラデシュの方と結

婚されて住んでおられ、少しの交わりがあります。この方は、誘われて短期宣教に参加した時、バングラデッシュのある村の村長の息子さんがクリスチャンで、その方に出会い、結婚に導かれました。現地の村の国際結婚式の様子を写真で見せてくださり、様子を教えてください、少しエキサイティングなエピソードもお聞きできました。

近頃は、海外へ出て行く宣教のことを時をおかずに知ることができるようになりました。また、最近増えている日本に來ている外国人の方々への宣教も、私たちにとって、より一層身近なこととして感じます。

今、アジア・アウトリーチ・ジャパンで取り組まれている、バングラデシュとの交流の中での会堂建築のために献金する事も、少しずつ進んでいることを感謝します。このプロジェクトも、また、私たちの身近な所にある宣教も、更に進んでいきますように、お祈り致します。

痛んだ。

セイン・パンという一つの貧しい村には、約 420 世帯が暮らしていた。地震とともに地中から火災が発生し、すべての家屋が炎によってなめつくされてしまった。人々はただ立ち尽くし、この信じられない光景とともに、自分たちの人生が煙の中に消えていくのを、ただ茫然と見ていたそうだ。この村に住んでいるある女性は、家から身分証明書も何も持ち出せず、逃げるしかなかった、と涙ながらに話してくれた。すべてを失い、途方にくれている人々を見るのは、大変辛かった。別の女性は、生後2か月の男の赤ちゃんをふところに抱き寄せていた。その赤ちゃんも、取られるかも知れない、と恐れていたそうだ。私の妻は彼女と赤ちゃんのために、食料と支援物資を渡した。



ミャンマーを襲った大地震から3か月が経過した。人々は今でも生き延びるために、懸命に頑張っている。地震の前ですら人生は大変だったのに、地震の後の生活はそれに比べ物にならないほどに難しい状態にある。ミャンマーにおける継続的な紛争によって、国は大変もろい状態にあり、

国は今回のような大災害に対応するだけの資源を持っていない。数千もの世帯が、食料や住まいやその他生活に必要な基本的な物資が不十分なままでの生活を強いられている。人々が受けた傷は深く、将来も不確実である。

しかし私たちはミャンマーの人々が苦しんでいるのを知りながら、ただ何もしないままではいられない。私たちは、被災した町々に、食料や支援物資を届けるための資金を集めているところである。寄付によって傷ついた人々に、希望を与えることができる。傷んでいる彼らが、忘れられていないことを知ることになるからだ。私たちは傷ついた町々に、希望を届けたいのである。

「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。」(ガラテヤ6:2)

◆祈禱課題

1. 地震によって大きな被害を受けたミャンマーの人々のために。慰めと力と助けを見つけることができ、人生を新たに築き上げていくことができるように。
2. ミャンマーの指揮を取っている軍事政権のために。ミャンマーが必要な助けを受けるために行動し、支援の提供が妨げられないように。
3. ミャンマーでの紛争がなくなるように。特に今回の地震によって被災した地域において平和が回復され、人々が安心と安全の中で人生を再建できるように。

バングラデシュ会堂建設レポート③

アジア・アウトリーチ・ジャパン主事 吉田 隆

日本からの支援によって、教会堂がなかった村に教会堂を建設するというプロジェクトの二つ目の会堂の建設が、ドルカマリ村で2025年の2月から開始されました。そのことについての進展の報告がアルバート牧師から入りました。

「日本のみなさま、お祈りを感謝します。」

ドルカマリの建設は8月30日までに完了予定です。屋根のプラスター（壁や天井の仕上げに用いられる左官材料の一種）工事は進行中で、側壁はほぼ完成しています。電気設備の設置は予定通り8月16日までに完了します。床のコンクリート打設は7月末に完了予定です。したがって、8月30日までに会堂建築が完成予定です。最終塗装は10月に実施されます。したがって、11月にご来訪いただければ幸いです。

ただ、政治情勢が不安定なため、何が起ころか分かりません。選挙は2月中旬か4月頃に行われる可能性があります。

ます。私たちの選挙は、血なまぐさい争い、殺戮、反対派による放火など、深刻な事態を招くものです。もし2026年2月か4月に選挙が行われれば、会堂には問題はありませんが、バングラデシュの状況は常に予測不能です。

したがって、スケジュールにバングラデシュ訪問とドルカマリの教会建物の落成式を11月に予定に入れてくださると嬉しいです。（7月16日付け）

「バングラデシュの政治情勢は非常に不安定です。国民は不確実性への不安を抱えています。主要な都市では暴徒による暴力が発生しています。」

政府は2026年2月中旬に選挙が行われる可能性があると発表しました。必需品の価格が上昇しており、貧困層は危機により日常生活の管理に深刻な困難を強いられています。お祈りください。」（8月7日）



編集後記

- バングラデシュのキリスト教会の会堂がなかった村に会堂を建設しておりますが、二つ目の会堂が完成に近づいていることを感謝します。日本とバングラデシュという二つの国のクリスチャンたちが、それぞれの国で、神の国が拡大し、前進するために祈り合っていくことができることを感謝します。
- アジア・アウトリーチ・ジャパン主事の吉田隆と恵利子は4月下旬から7月下旬にかけて3か月間、フランス・パリのプロテスタント日本語キリスト教会での牧会伝道のために派遣されましたが、無事帰国いたしました。
- アジア・アウトリーチ・ジャパンでは、毎月アジアの異なる

国の宣教情報を提供させていただき、1か月その国のためにお祈りいただいております。5月トルコ、6月ジョージア、7月アルメニア、8月シリア、9月レバノンのために国の紹介と祈りの課題が挙げられています。ウェブサイトからご覧いただけますが、毎月の配信をご希望の方は、aojapan@zeus.eonet.ne.jp までお申し込みください。

- アジア・アウトリーチ・ジャパンのウェブサイトをお楽しみください。 <https://aojapan.org>

迫害されている
クリスチャンの
ために祈ろう！
hakugai.org